



デンマークの家具メーカーFREDERICIA FURNITURE(フレデリシアファニチャー)社は、同社のデザイナーであり、現代の北欧モダンデザインの礎を築いてきたデザイナーの一人ボーエ・モーエンセン(Børge Mogensen)の生誕100周年を記念し、彼のキャリアを語る上で重要な2つの作品を復刻するとともに、今日にも多くの人々に愛され続ける彼のデザインの魅力、その歴史やルーツをまとめた『MOGENSEN 100 YEAR BOOK』をリリースいたします。

なお、7月26日(土)～8月18日(月)アクタス新宿にて、復刻家具のお披露目とともに、モーエンセンの代表作を一堂に集めたエキシビションを開催いたします。

是非ご注目くださいますようお願い申し上げます。

日本とデンマーク・デザインの間には長い歴史があり、フレデリシアと日本のデザイン・コミュニティとの付き合いは50年以上になります。デンマークと日本のデザインの間には多くの類似点があり、両国のデザインに対する相互理解は今日でも日本の家に収められているボーエ・モーエンセンの作品から見て取ることができます。

Børge Mogensen生誕100周年の今年、この偉大なデザイナーとその作品に対する我々の愛情を日本の皆様と分かち合えたらと思っています。モーエンセンの作品の中でも選りすぐりの物を展示し、皆様と共に彼の人生の一瞬を追体験できることを、とても光栄に思います。

トーマス・グラヴァーセン
フレデリシア代表





MOGENSENとFREDERICIA

1972年に58歳という若さで惜しくもこの世を去ったモーエンセンは、生涯にわたり多くのデザインを生み出してきました。若くしてF.D.B.(デンマーク協同組合連合会)のデザインチーフを務めた後、FREDERICIA社のアンドレアス・グラヴァーセンとの運命的な出会いを得て、1955年から16年間、同社のデザイナーとして新たな家具の開発をはじめ共同活動に取り組み、今日もFREDERICIAを定義する一連の美しく機能的な家具を作り出しました。それらは、現在においても多くの人々に愛される名作となり、北欧家具デザインの系譜に足跡を残すものとなりました。

※写真: ポーエ・モーエンセン(右)とアンドレアス・グラヴァーセン(左) アンティークスタイルの家具を製造する町所有の工房であった旧FREDERICIA社を買取り、1955年、新生FREDERICIA社としてスタートさせたアンドレアス・グラヴァーセン。その際に彼が出した条件が、当時新進の建築家であったポーエ・モーエンセンをデザイナーとして迎え入れ、家具製造を再構築することでした。ビジネスマンとデザイナーという異なる視点、二人は衝突することもしばしばありましたが、互いに深い敬意を払いながら親密な友人関係を築き、モーエンセンが描いたアイコン的な家具を共に作り出してきました。モーエンセンとグラヴァーセンは家族ぐるみでの親交を深め、両家の交流は現在も続いています。

生活に根付いたMOGENSENのデザイン

モーエンセンのデザインを理解するためのキーワードは「機能的性」。強く美しいライン、シンプルでありながら実用的で機能美を追求したモーエンセンの作品は、様々な生活空間に溶け込み、時代と文化を超えて今なお世界で愛され続けています。それらは、限られた人のためではなく、誰もが使えるものとして常に大衆の視点でデザインされ、ほとんどが生活の中から生まれたものばかりです。

日常に学ぶことを真剣に取り組んだ彼は、日頃から衣類や調理器具といった日用品の寸法を測っては、科学的な方法論を導きだしていました。また、生活のあらゆるシーンで生まれるアイデアの「瞬間」を書き留めるため、ときにタバコの箱やナプキン、封筒の裏など生活の中で手に取るものにスケッチを残すこともあったといいます。

建築を学んでいたモーエンセンは、常に人のための家具が空間でどうあるべきかを考え、ゲントフテの自邸を「実験室」としてプロトタイプを持ち込んで、実際の生活空間で自ら検証を行っていました。

昼夜を問わず繰り出されるアイデアから、こうした入念な研究と実験を経て機能的な家具が誕生していきました。



FREDERICIA®**NO. 1 SOFA**

ナンバーワン ソファ

100周年記念
復刻品

1955年モーエンセンがアンドレアス・グラヴァーセンと共に、フレデリシア社の最初のソファとしてデザインしたモデル「201」は、その後10年間製造されていたもの。モーエンセンの生誕100周年を記念した2014年このソファを「No.1 Sofa」として復刻しました。その時代風のルース・クッションが使われたこの作品は、その後モーエンセンのレザー・ソファの先駆けとなりました。3つに分かれるクッションが独特の表情を与えるとともに、手入れを簡単にしています。

w143 × d86 × h83 × sh42cm (2 seat) ¥457,000～
w206 × d86 × h83 × sh42cm (3 seat) ¥558,000～

**SØBORG CHAIR**100周年記念
復刻品

1950年と1952年、「新しい機械を使用して製造可能なシェル・チェアを」という目的のもと「Søbørg Chair」はをデザインされました。モーエンセンのお気に入りの素材を用いたゆったりとした座面と背もたれは、その後の彼のキャリアを通して見られる作品の形の始まりとなりました。フレデリシア社は未来のためモーエンセンの精神に新しい息吹を吹き込むという意味で、2014年Søbørg Chairの復刻しました。当時からデンマーク人の平均身長が伸びたため、高さ2cm程サイズ変更しています。

w51 × d49 × h79.5 × sh44.5cm ¥61,000～

**Børge Mogensen**ボーエ・モーエンセン
1914-1972

1914年デンマーク北部にある街オルボー生まれ。1934年に家具マイスターの資格を得て、木製家具職人としてのキャリアをスタートさせる。1936年Copenhagen School of Arts and Crafts(コペンハーゲン芸術工芸学校)に入学し、デンマーク近代家具デザインの確立者コア・クリントに師事。その後、Royal Academy of Fine Arts(王立美術アカデミー)に進学。1942年卒業後もなく、F.D.B.(デンマーク共同組合連合会)の主任デザイナーに就任し、同時に母校Royal Academy of Fine Artsで、コア・クリントの助手として勤務。その後、1950年に自身のデザインスタジオを設立。1955年フレデリシアファニチャー社との共同活動を開始。1950年Eckersbergs Medaille(エッカベア賞)受賞。1971年フレデリシアファニチャー社とともに、Furniture Prize(デンマーク家具大賞)を受賞。ロンドン王立アート協会認定により、名誉デザイナー・オブ・インダストリーに指名され、72年、C.F Hansen Medaille(C.F.ハンセン賞)受賞。同年、58歳の若さで逝去。

Spanish Chair

スパニッシュ・チェア

1958年のスペイン旅行中に会ったクラシックな椅子にインスパイアされデザインされた。スペインの貴族階級に使われていた肘掛けの幅が広く、一枚革の木製椅子を現代的に凝った彫刻を取り除き、必要不可欠である幅広の肘掛は残した。こうすることで、椅子に個性と、カップやグラスを置くための機能性を与えた。オーク材とフルグレイン・レザーの組み合わせが、強く飾らない印象を作り出している。

**J-39**

"People's Chair(みんなの椅子)"と呼ばれる「J-39」は1947年の誕生から現在まで途切れることなく販売されているデンマークのベストセラー。公共スペースから個人邸まで幅広い用途で使用されている。アメリカのシェーカー家具から影響を受け、シンプルかつ独創的に仕上げたもの。





Børge Mogensen 100 Years Exhibition

アクタス新宿店にて、エキシビションを開催いたします。

100周年を記念して復刻したNo.1 SofaとSøborg Chairのお披露目とあわせて、彼の代表作を一堂に集結。モーエンセンとフレデリシアのデザイン、その歴史やルーツ、彼のデザインが生まれた当時の様子やライフスタイルをひも解きながら、現行の家具をはじめ、スケッチや図面、一部実際に自邸で使用されていた家具など貴重なアーカイブとあわせてご紹介いたします。

Børge Mogensen 100 Years (仮)

会期 7月26日(土)～8月18日(月) 共催 FREDERICIA
www.fredericia.com
会場 アクタス 新宿店
東京都新宿区新宿 2-19-1
Bygsビル1F・2F
03-3350-6011 ACTUS
www.actus-interior.com

※左写真でモーエンセンが横になっている自邸で使用していたオリジナルの「2213」ソファの現物を展示予定。また、会期中にはトークショーも予定しております。是非ご注目ください。



MOGENSEN 100 YEAR BOOKS

モーエンセンの自邸やサマーハウス写真などあわせ、モーエンセンとフレデリシアのデザイン、その背景をまとめた小冊子。フレデリシアの関係者の他、彼のデザインに影響を受けたジャスパー・モリソン氏や、モーエンセンやアンドレアスとも親交があった島崎信氏、現在モーエンセンの展覧会を開催している Design Museum Denmarkのディレクター、クリスチャン・ハムステッド氏等にも寄稿いただきました。

A5サイズ 48ページ 各販売店にて無料配布予定。

FREDERICIA FURNITURE(フレデリシア ファーニチャー)

1911年、Fredericia Stolefabrik(Fredericia Chair Factory)というアンティーク・スタイルの家具の専門会社として創業。戦後の近代的なデザインへの需要に対して、当時のスタイルの家具では満たすことができず縮小。1955年、アンドレアス・グラヴァーセンが買収し、彼は既存の商品ラインを破棄、Fredericia Furniture社として、ポーエ・モーエンセンとともに新規製品ラインを立ち上げた。この共同努力の結果、現在も代表作となっている機能的な家具のシリーズが生まれた。1995年、会社はアンドレアスの息子であるトーマス・グラヴァーセンへと引き継がれ、彼はデザインと製造に対しさらに流動的なアプローチを持って会社を新世紀へと導いた。彼はモーエンセンのデザインを製造し続けると同時に、ナナ・ディッツェルのようなデザイナーと共に世界的に認知される家具を生み出し、また、セシリア・マンツ、GAMFRATESIをはじめとする気鋭のデザイナーとの家具を発表し、コレクションの幅を広げている。



※左写真は、1930年代歴史的なスタイルの家具を製造していた頃の工場の様子。フレデリシアの町のPrinsess通りにある古い工場の最上階で撮影された。優れた職人技術は、今日にも受け継がれています。

